

純真学園大学の学生を対象に 集団接種を行いました



婦人科部長 衛藤 貴子

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）が性行為によって子宮頸部に感染することが原因で、特に若い女性の罹患が増えています。ワクチン接種により発症リスクが減少します。無料で3回のワクチン接種を受けられるキャッチアップ接種（今年度27歳になる人まで）も今年度いっぱいとなりました。

そこで、6月10日（月）婦人科外来において、純真学園大学の学生を対象に、HPVワクチン（いわゆる子宮頸がん予防ワクチン）の集団接種を行いました。合計15人が接種のために来院されました。

今後も円滑な集団接種を実施できるように体制を整備してまいります。

接種

経過観察
(30分間)

問診

■■■ 学生のみなさん、
今日の予防接種はいかがでしたか？ ■■■

《＜*学生さんの声*＞》

Aさん：手続きに時間がかかったり、注射がこわかったりするのかな？と思っていましたが、一瞬で終わったって感じで、来て良かったです。注射も思っていたよりも痛くなかったです。

Bさん：私は思ったより痛かった～

Cさん：今まで接種しないといけなかったと思っていたけど、ひとりではこわくてできませんでした。みんなと一緒に来れて良かったです。

受付

経過観察をしながら、
学生さんと交流



対象の方に、ご自身で十分に考えて、安心してワクチン接種をしていただけるよう、当院では有効性、副反応のリスクなどについての説明に努めています。

お問い合わせは婦人科外来まで（病院代表）092-541-4936

